

## 豊能町総合まちづくり計画審議会（第6回）議事概要

日 時：令和3年9月15日（水）午後14時00分～16時10分

場 所：豊能町役場2階 大会議室

出席者：委員15名、事務局3名

傍聴者：3名

### 1. 《議事》土地利用構想の変更点について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①土地利用構想（修正）案（資料1）

(2) 主な質疑、意見

〔副会長〕町外の方も読み手としてイメージしているのなら、地名が書かれていないので分かり難い。

〔事務局〕分かりやすい表記の方法を検討する。

〔会 長〕沿道整備ゾーンは注目が集まる場所だが、範囲が分かり難い。

〔事務局〕国道や府道に沿った形で設けている。具体的な範囲は、来年度に策定を予定している都市計画マスタープランで設定したいと考えている。

〔会 長〕都市計画マスタープランが策定されるまで白紙の状態になってしまうので、ある程度は説明する必要があると思う。

〔副会長〕沿道整備ゾーンの説明にある「地区計画ガイドラインに基づく地区計画や町独自提案基準を定め」という部分を、もう少し丁寧に記載すれば分かりやすくなるのでは。

〔副会長〕ゾーン名称について、(1) (4) (5) は名称でとどまっているが、(2) (3) は意味合いまで含んでおり様相が異なっている。また、(2) は沿道整備を行う目的が産業誘致のみとは限らないのであれば、「沿道整備ゾーン」にとどめておいた方がよい。(3) も就農移住促進のためだけの田園交流とミスリードされる恐れがある。

〔委 員〕市街地整備ゾーンに「新たな市街地形成の可能性を検討」とあるが、具体的にイメージできているのか。それとも、これからイメージを作っていくのか。

〔事務局〕ある程度のイメージはしている。例えば、公共施設の再編が進んだ際にそういったことができないかということ踏まえて、「可能性を検討」と記載している。

〔委 員〕基本的な考え方のところ「バイパス道路の整備」が入っている。具体的な

構想がないのなら、省くか違う表現を検討していただきたい。

## 2. 《議事》まちの将来像について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

①まちの将来像（資料2）

(2) 主な質疑、意見

[委員] まちの将来像については、これまでの議論で会長と事務局に一任するという結論に達している。この案でよい。

[委員] 内容に異論はないが、キャッチフレーズ的な言葉を入れてはどうか。例えば、“里山タウン”という言葉を入れるのはいかがか。

[副会長] キャッチフレーズが「自然に抱かれた多様性・創造性で未来が輝くまち とよの」ではないのか。

(事務局) 事務局としても、そのように考えている。

[委員] 今の言葉はありふれていると感じた。「未来が輝くまち」はどの市町村でも使われているので、「多様性・創造性を生かした里山タウン とよの」のように、もう少し目を引く言葉を使った方が良いと思う。

[委員] 将来像についてはこれまで十分議論してきた。今のこの時間を使って議論を続けるよりも、最後にもう一度検討してはどうか。最終的に作り直したとしても、それほど違和感はないのではないか。

[会長] 今の意見は分かるが、決めておかないと後ろに続く文章とつながらなくなることもあると思う。

[副会長] 説明文にネガティブな表現が多い。「ありふれた」「個性に欠けている」という内容は良くない。2段落目は必要ないのでは。とにかくポジティブに終始する方がよい。

[委員] 同意。「二極化したまち」も東西の仲が悪いように思われるかもしれないので無くしてはどうか。

[委員] 東西の二極化や高齢化という問題を抱えていることは事実。それを隠す必要はない。二極化も、東地区では農作物がたくさん採れ、西地区では住宅地としての生活があると捉えれば良いのではないか。自然に囲まれたベッドタウンであるという豊能町の良さが出ていると思う。町の問題も見つめながら考えていくべきで、キャッチフレーズだけが一人歩きするのは避けるべき。「里山タウン」という文言を入れようと言う話があったが、キャッチフレーズに二つの意味は要らないと思う。

(事務局) 説明文については一定修正の必要があると考えているが、将来像は基本方針を集約するものとして、この案で進めさせていただきたい。

- [委員] 事務局案で構わないが、波線(～)を使って補足するような言葉があればと思う。
- (事務局) 波線で副題のようなキャッチコピーというのは考えていなかった。“里山”というキーワードを入れてはとの意見もあったので、それも含めてまた検討する。ただ、提案している「自然に抱かれた多様性・創造性で未来が輝くまちとよの」についてはこのままでお願いしたい。
- [委員] 資料の文章を作るためだけの会議になってしまっている。もっと中身のある話し合いをしたい。具体的な説明があるため、キャッチフレーズはシンプルなものでよい。「自然に抱かれた」と“里山”が一つの文章の中にあるのはおかしいと思う。同じことを2回言っている。
- [副会長] 東西を網羅しての「自然」という表記であるならば、この文言でよいと思う。キャッチフレーズというのは字数に制限があるものなので、副題は必要ないと考える。
- [会長] まちの将来像はこのまま、波線で補足を入れるかどうかは事務局で検討、下の説明文は修正することにする。

### 3. 《議事》基本計画(素案)について

(1) 以下の事項について事務局より説明があった。

- ①基本計画(案)の策定にあたって(資料3)
- ②基本計画(施策体系別素案)(資料4)
- ③基本計画デザインイメージ(参考資料1)
- ④主要な取組みシート(参考資料2)

(2) 主な質疑、意見

- [委員] 主要な取組みが多い。人口が少なく高齢化が進む中で、活動を行っていくパワーがあるのかと心配している。
- [委員] 第4次総合計画の課題が今もあまり解決されていない。公共交通や医療の問題に目をつぶっているような状態だと思う。本当に困っている人のための政策に早く取り掛かりながら、10年先を考えていくスタンスを取ってほしい。資料に項目が羅列されているが、今すぐ取り掛かるもの、5年後に取り掛かるものというように分けてはどうか。
- (事務局) 今日お示した取組みについては概要なので、次回にはもう少し詳しくお示しする予定。今はどの項目も同じような形で書いているが、すぐ取りかかる部分、そして5年後に取りかかる部分という形で優先順位がわかるような表記にしたい。

- [副会長] 資料3について、基本計画と基本指針の整合性を図るべき。基本計画にある「都市×里山による魅力づくり」というのは将来像全体を網羅するトップに来るものであり、「新しい生活スタイル」が基本指針1、「新しい仕事スタイル」が基本指針2、「新しいまちづくりのスタイルの創造」が基本指針3にあたると思う。トップに「都市×里山による魅力づくり」を据え、それを実現するために「新しい生活スタイル」「新しい仕事スタイル」「新しいまちづくりのスタイルの創造」という三角形があるわけだ。
- [会長] 資料4については優先度の視点を入れて表を組み替えることもできる。しかし、果たしてこれだけ多くの施策を本当に実施できるのか。優先度や重要度で見直しをかけ、項目を絞っていくという方法もあるかと思う。
- [副会長] 確かに主要な取組みが74、新しい取組みが23もあり、今の行政の人員で実施することは難しいと思う。場合によっては地域住民の協力を得る視点が必要だ。どうしても公がしなくてはならないものを一定抽出し、地域住民が協力できるものについては色を変えるなどして示し、さらに優先順位も付けてはどうかと思う。
- [委員] 単に項目数が多いだけの話ではない。現状と課題が停滞している状態で新たな施策を行う労力があるのか。住民の意識や態度も問題だ。町政懇談会の内容がホームページに載っているが、それを見ると要望だけで自分たちの努力が見えない。住民ももっと考えていくべきで、そのためにはこの計画を住民に浸透させることが大事だと思う。町に遊びに来た人に住民が快く対応できるかが問題だ。交流人口を増やすためにいくら施設を造って交通の便をよくしたところで、住民と来訪者とのコミュニケーションがきちんと図れなければ意味がない。だから、このまちを生かしていくために自分たちですべきことはするというような方向に持っていける仕組みづくりが必要だと思う。
- [委員] 資料3について、ICTの利用という文言やSDGsに関する言葉を入れてはどうか。
- [委員] 「幹線道路の維持・整備」「下水道施設の維持・整備」は、「維持・更新」にしたほうが良い。今あるインフラを維持していだけで相当な重荷で、新たなものを作る余裕はないと思う。
- [委員] これからどう落とし込んでいくかという姿さえ見えていれば、取組みの一つひとつを取り上げて議論する必要はないと思う。
- [委員] 実施計画だが、この計画の中で実現プログラムのようなものを定めるのか、それとも部門別計画に落とし込むスタイルにするのか。
- [委員] 施策の抽象度が高い。具体的に何をするかまで話し合うのか。
- [会長] 具体的なことは、部門別計画の領域になる。
- [副会長] 新しい施策は、どこが管轄するのかを一定明らかにしておかないと立ち消え

になってしまうリスクがあるので、留意した方がよい。

〔会 長〕 行政ができる範囲はかなり限られる。計画に書いていることを何とかして実現しようと思うと、書かれていることを展開できる組織が必要だ。その組織を育てるための過渡的な状況では、期間限定での立ち上げ支援などがある程度しないと難しいものがある。例えばITと高齢者。高齢者もスマートフォンを使って交流や情報収集をしたほうがよいが、スマートフォンを使うことは簡単ではない。だから操作を教えることが必要で、実際そういう教室もある。スマートフォンを活用できるようになればデマンドタクシーの利用や訪問医療の予約等、いろいろなことができる。それをどのように普及させるかというと役場でするわけにはいかないので、組織を育てる必要がある。その組織に若い人が入りある程度報酬を得られれば就労支援にもなる。政策課題としてここにあげているものを展開し実現させていくには、頭を柔軟にして考えていかなければならない時代に来ていると思う。

〔委 員〕 計画を担当する部局が先頭に立って、個々の進捗状況を見ていき、必要があれば見直していくことが重要だ。項目を実施計画でふるいにかけてながら検証していく体制が必要だと思う。

〔会 長〕 企業であれば外部監査員が常にチェックし、公表もしている。公共の場合、検証する組織が弱いので、そこも育てていく必要があると思う。

〔委 員〕 資料4については主要な取組みが多すぎるという意見が出ていた。次回までに主要な取組みを整理し、減らしてもよいかと思う。

〔委 員〕 人口を増やすことが最も重要で、そのための成功体験を持ちたい。それほど難しくないので人口を増やせるような施策を優先的に実施してほしい。

#### 4. その他

(事務局) 次回は11月16日(火)午後2時から。12月中にパブリックコメントを実施し、来年1月25日(火)午後2時から、最後の審議会となる第8回審議会を開催する

#### 5. 閉会

(1) 午後4時10分に閉会した。

### 本議事録にかかる会長の内容確認・署名

本議事録について議事内容と相違ないことを確認する。

豊能町総合まちづくり計画審議会会長

会長署名